

# 日中科学技術

No. 183

2022. 12. 20

発行所 特定非営利活動法人 日中科学技術交流協会

〒103-0003 東京都中央区日本橋横山町 3-1 横山町ダイカンプラザ 302 号

E-mail : [jcstea2019@gmail.com](mailto:jcstea2019@gmail.com) / [nagakiya@nifty.com](mailto:nagakiya@nifty.com) URL : <http://jcst.in.coocan.jp/>

電話 : 03 (3666) 6939 携帯 090-7629-6260

Fax : 03 (3666) 6939

## 中国人留学生研究奨励賞の由来

協会会長 電気通信大学名誉教授 有山正孝



当協会の重要な事業の一つとなっている中国人留学生研究奨励賞の由来については、毎年授賞式の際に会長挨拶の中で簡単に触れているが、会員諸賢の中にもご存知ない方がおいでかと思われるので、此処に改めてやや詳しく、また私見も交えて書き留めておく。但しこの賞が設けられたのは1985年のことで、残念ながら当時の記録の大部分は事務局の移転・縮小に際して失われ、また当時協会の運営に当たっておられた先生方の殆どが故人となっておられるので、設置までの経緯については不明な点が多い。唯一欠けずに揃っている資料は会報であるが、ここに掲載されている理事会・幹事会の議事録は極めて簡単で、かつ漏らさず報告されていないので、詳しい経緯を知ることができない。当時は今日のように紙媒体の資料をデジタル化する

技術はまだ普及して居らず、多く用いられていたのはマイクロフィルムであったが、少なからず手間と経費がかかるので、財政の豊かでない協会としては手が届かなかったのであろう。従って以下の記録も完全ではないことをお断りしておく。もし当時のことをご記憶の方、資料をお持ちの方がおいでになれば、ぜひご教示ご叱正を賜りたい。

この研究奨励賞が設けられた契機は、当協会の元会員・理事であられた故野上茂吉郎博士(1913~1985)が1985年7月に逝去された際に、ご遺志によって当協会に多額のご寄付を頂いたことにある。

野上先生は東京大学理学部物理学科のご出身で、東大工学部助手、九州大学教授、学習院大学教授をご歴任の後、東大教養学部教授として定年を迎えられた。ご専門は原子核理論であった。先生は当協会の設立準備段階からご協力くださり、設立後は理事としてその運営に当たられ、この会報の編集も長く担当された。

さてこのご寄付を有意義に活用する方法を理事会で検討の結果、先生の当協会に対するご功績を永く記念するためにこのご寄付を核として「野上茂吉郎記念交流基金」を設置し、中国から日本に留学している研究者の研究助成に充てる案がまとめられ、同年11月に開催された第10回(昭和61年度臨時)総会に諮られ、可決された。

言うまでもなく1985年と云えば中国において文化大革命が終結してからおよそ10年が経過し、鄧小平の下で改革開放政策が軌道に乗

った時期である。4つの近代化政策が掲げられ、文革中に疲弊した大学・研究所の立て直しを図るべく研究交流が活発になり、また多くの教員・留学生が諸外国の大学に送り出された。我が国でも1979年度から中国政府派遣留学生を受け入れが開始されていた。しかし当時は日中間の経済格差は甚だしく、留学生諸君は経済的に苦しい生活の中で研究・勉学に励んでいた。このような状況に置かれている中国の留学生諸君を激励し、些少ではあるが経済的にも援助しようという願いから、この基金設置の案が生まれたものと思われる。

総会の決議を受けて協会では募金活動を開始し1986年12月までに200名以上の会員諸氏からのご寄付が集まった。その総額については残念ながら記録が失われていて不明であるが、数百万円のオーダーであったと推測される。募金活動と並行して翌1986年7月21日に開催された第11回(昭和62年度定時)総会において、野上基金による研究助成の第1回交付は当協会の創立10周年記念事業の一環として1987年中に行うこと、また実施の細部はなお慎重に検討して対処することが決定された。

以後、理事会と理事会の下に設けられた幹事会において、野上基金を特別会計として扱う事、またその果実を用いて毎年優れた中国人留学生1名に対して奨励状と研究奨励金10万円を交付すること、募集方法・選考方法などが決定された。研究助成よりはやや後退した事業と思われるが、基金とその果実の規模から判断して、実行可能な案が採択されたものと想像される。

斯くして受賞者候補者の募集・選考が行われ、1987年12月17日13時より30分の間、学士会館において“第1回野上茂吉郎記念基金(略称野上基金)第1回中国人留学生研究奨励金贈呈式”が挙行された。

当日は橋口隆吉会長、弥永昌吉理事、小川智哉理事、窪田雅男理事、藤田良雄理事が列席、来賓として中華人民共和国駐日本国大使館参事官張宇傑氏、故野上茂吉郎先生令夫人野上正子様ご臨席の下に、九州大学大学院農学研究科博士後期課程3年の呉少勇氏と東北大学大学院理学系研究科博士後期課程2年の陸太進氏に賞状と奨励金10万円が贈呈された。

以後、2022年まで36年間に亘ってこの奨励金の贈呈は連綿と続き、2022年1月までに受賞者の累計は151名に達している。当初は毎年1

名に授与という計画であったが、第1回の募集・選考において既に応募者が多く1名に絞ることができず2名に授与することになり、その後、最も多かった例では8名に授与した年もある。受賞者の一覧は4頁以降に掲載してあるのでご覧いただきたい。

このようにこの事業が継続されているのは、言うまでもなくその後も引き続きご寄付くださった個人または組織があったからで、その総額が1,500万円を下らないことは容易に推計できる。なおその為に、野上基金の名の他に、ご寄付くださった個人名または組織名を冠したいいわゆる冠賞が生まれた。これ等の名称も別表の内に記載されている。しかしご寄付下さった方の中にはまだ現役でご活躍中の方もあり、個人名を出すことは遠慮したいというご意向もあったので、2009年以降、特段のご要望がある場合は別として個別の名を冠することをやめ、日中科学技術交流協会賞に統一することとしている。

さて毎年、計画された受賞者数を上回る応募者がある以上、選考を行わねばならぬ。

この選考はどのように行われて来たのであろうか。記録によればこの事業の実施は、理事会と幹事会に委ねられているので、選考もこの幹事会もしくは幹事会が設置した選考委員会で行われたものと推測される。選考の規程または内規も制定されていた筈であるが、これは見出すことができなかった。2006年に当協会が特定非営利活動法人に改組された後は、2009年3月12日開催の第16回理事会において承認された“日中科学技術交流協会中国人留学生研究奨励賞に関する内規”に基づいて選考を行い、さらに2019年6月、一般社団法人に改組されてからは2022年7月23日開催の第14回理事会で“一般社団法人日中科学技術交流協会中国人留学生研究奨励賞に関する規則、同選考委員会規程、同細則を制定し、これ等に基づき選考委員会を設置して選考を行い、事務局が業務を補佐している。

年間の事業日程は概ね以下の通りである。すなわち3月に行われる次年度事業計画および予算案策定の際に研究奨励賞授賞予定人数を定め、夏前から会報に募集要項を掲載するなどの方法で会員から候補者の推薦を求め、並行して理事会で選考委員会の設置、選考委員長の選任を行い、9月末に募集を締め切った段階で応募者の研究題目を勘案して選考委員を

選任し、10月から11月にかけて選考をしていただき、その結論を受けて12月に理事会において受賞者を決定し、12月中旬から1月中旬の間に授賞式と受賞者による研究発表会を行うというものである。今年度からこの手順を少し改めるため、前述の如く選考委員会規程を整備した際に、選考委員会を常置の委員会とし選考委員長の任期を2年と定めたところである。

授賞式には例年来賓として受賞者の指導教員並びに中国大使館の科学技術担当の方をお招きし、大使館の方から祝辞を頂いている。引き続き開催する研究発表会は公開であるが、2021年、2022年はCOVID-19パンデミックの影響で、zoomによるオンライン方式で行った。

#### 写真参照

発表会は少々時間が長くなるのでお忙しい方々には参加して頂き難かったが、やむを得ずオンライン方式にしたところ参加者が増えたのは予想外であった。今後、対面方式が可

能になればその方が望ましいが、その場合もオンライン方式は併用して多くの方に参加の機会を提供できるようにしたいと考えている。このように36年の間に様々な細かい変化はあったものの、この研究奨励賞は「井戸を掘った人」野上先生のご遺志を継承するという根本理念は失わずに続けられてきた。今後も可能な限りこれを継続したいと念願している。

しかしこの野上基金が設置された時期から時代は大きく変わった。中国は急速に経済発展を遂げ、科学技術は進歩し、その進歩の勢いはこの数年、分野によっては明らかに我が国を凌駕している。この他にも諸々の要因があり、何れは中国からの日本留学の動向に変化が生じることは避けられないと考えられる。一方、内部事情としては基金が枯渇している。

このような状況の中で今後この奨励賞を如何に運営すべきか。それは我々に課せられた重い課題の一つである。

### 中国人留学生 研究奨励賞 授与式



2022年1月 Zoom 会議方式での授与式



# 中国人留学生研究奨励賞受賞者一覧

## 1 (1987年度～1993年度)

NO	年月日	名前	機関	身分	テーマ	奨励賞名	指導教官	出典金報
1	1987/12/17	呉少勇	九大農学	博士3年	?	野上基金	1	56
2		陸太進	東北大理学	博士2年	?	野上基金	1	
3	1988/12/16	徐紀人	京大防災研	研修員	東アジア地域の地震発生機構と応力場の研究	野上基金	2	58
4		呂斌	東大	博士	日本における経済成長の段階別に見た工業立地, 原単位の動向に関する研究	野上基金	2	
5		鍾兆偉	東北大	博士(工)	ダイレクトドライブ式NCホブ盤の研究	野上基金	2	
6		李国平	東大	博士(工)	電子衝撃による希ガス原子の励起及び電離過程の電子エネルギー損失分光法及び真空紫外光法による研究	野上基金	2	
7		薄可君	横国大	博士(工)	生体内の電子伝達機構等の研究	野上基金	2	
8		胡晓	東大	博士(理)	コヒーレント異常法による臨界現象の統計力学的研究	野上基金	2	
9		劉海峰	東大	博士(工)	半導体レーザーの非線形とダイナミック特性に関する研究	野上基金	2	
10	1989/12/18	林志翔	日大	博士	超高強度ポリマーセメント系複合体の開発	野上基金	3	60
11		文忠民	筑波大学	博士	超高度電導薄膜の作成1Eびその微細加工による量子干渉素子の作成	伏見康治	1	
12		李明哲	長岡技科大	博士	鋳造加工の変形シミュレーション及びその結果による材料予測に関する研究	高度自動化	1	
13	1990/12/1	曹榮	九大農	?	?	野上基金	4	無し
14		陸昊皎	長岡技科大	?	?	伏見康治	2	
15		江偉華	長岡技科大	?	?	高度自動化	2	
16		季増民	工学院大	?	?	天田科技	1	
17		武高輝	千葉(工)	?	?	天田科技	1	
18	1991/12/20	趙軍	長岡技科大	修士	Hough変換を用いた円錐台形の検出	野上基金	5	62
19		戴義生	埼玉大学	博士	イオン注入したフッ化物ガラス	野上基金	5	
20		其魯	東大(理)	研究員	鉄隕石中のMoの同位体存在比	伏見康治	3	
21		張敏燕	東大(工)	博士(工)	高効率高精度のPFM解析コード	高度自動化	3	
22		潘文霞	東大(工)	研究員	プラズマ焼結法	天田科技	2	
23		龍首生	東京農工大連合農学	博士	家畜体重の自動計量	天田科技	2	
24	1992/12/18	陳立東	航空宇宙技術研究所	特別研究員	セラミック微粉体の気相合成と構造解析	伏見康治	4	64
25		方義	長岡技科大	博士後期	油圧ピストン機構の潤滑特性	高度自動化	4	
26		金大慶	東工大理工	博士後期	塑性流動締結の成形特性と締結強度	天田科技	3	
27		劉忠範	分子化学研究所	特別協力研究員	新機能物質の基礎研究	有山兼孝	1	
28		王麗莉	東工大理工	博士後期	酸素反応による機能性高分子の合成	野上基金	6	
29		王正明	千葉大自然科学	博士後期	酸素気体のマイクロファイリング機構	高度自動化	4	
30		武成祥	東工大理工	博士後期	材料の耐高温腐食性の電気化学的研究	天田科技	3	
31		趙雲鵬	岩手大連合農学	博士後期	核DNA定量の基礎研究と臨床への応用	天田科技	3	
32		陳海龍	東大	研究員	材料設計のためのデータシステムの研究開発	天田科技	4	
33		陳農	東大	博士	半導体レーザーの複合機能、高性能化	伏見康治	5	
34	範立	東大	博士	エネルギー変換および環境に関する研究	天田科技	4		
35	黄子諒	東大	博士	遷移沸騰熱伝達機能の研究	天田科技	4		
36	廖捷凡	慶応	博士	含水無機微粒子のメカノケミカル反応機構の解明	野上基金	7		
37	1993/12/17	馬要武	長岡技科大	博士	レーザーを用いた回折格子法によるひずみ測定法の研究	高度自動化	5	68
38		唐建志	理研	研究員	ヘリウム及びヘリウム様イオンの高い励起状態の研究	有山兼孝	2	
39		姚培鑫	東大	研究員	微生物の培養の効率化と培養プロセスの応用	野上基金	7	
40		張韶華	東大	博士	既存高層建物の振動特性と耐震信頼性評価	天田科技	4	
41		鍾卓	東大	博士	知識ベースとデータベースの統合利用における知識の発見と管理	高度自動化	5	

## 2 (1994年度~2000年度)

NO	年月日	名前	機関	身分	テーマ	奨励賞名		指導教官	出典 会報
42	1994/12/15	陳乃克	埼玉大学	大学院生	電空圧力変換器の研究と応用	有山兼孝	3	荒木 献次	72
43		陳昱	東大	工学部助手	格子モデルによるミクロ流体解析手法の研究	伏見康治	6	秋山守	
44		崔 祺	東大	大学院生	高カルミニウム合金の析出と微量添加元素	天田科技	5	官野幹宏	
45		湯一平	埼玉大学	大学院生	看護者をやさしく支えるサポートカーの開発	高度自動化	6	荒木 献次	
46		王青躍	埼玉大学	大学院生	冬季高濃度大気汚染現象時における粒子状物質の性状に関する研究	野上基金	8	坂本和彦	
47	1995/12/14	陳曉民	横浜国立大学	大学院生	r光導波路の化学的応用に関する研究	野上基金	9	村林真行	76
48		金炳哲	埼玉大学	大学院生	ニューロイ知能情報処理の溶接への応用	高度自動化	7	大島健司	
49		凌 楓	理研	研究員	ミトコンドリアDNA組換え変異体の取得	伏見康治	7		
50		賈買提明文臣	東京理科大学	大学院生	SiC強化アルミ合金の損傷解析	天田科技	6	菊池正紀	
51		叶際平	東工大	大学院生	欠陥ウルツ鉱型III2VI3化合物半導体の結晶構造の研究と高放射光光学素子の実現	野上基金	9	入戸野修	
52		張隨安	理研	研究員	短パルス超音速ビームエビタキシー法の研究開発	有山兼孝	4		
53		趙唯堅	長岡技科大	大学院生	RC部材のより一般的挙動と設計法の拡張	天田科技	6	丸山久一	
54	趙新為	理研	研究員	青色発色ナノ微結晶Siの作製、特性評価と応用	有山兼孝	4	水谷惟恭		
55	1996/12/13	車声雷	東工大	大学院生	エアロゾルプロセスに於ける粒子構造の発達機構と単結晶Pd粒子およびPd基複合粒子の合成	天田科技	7		79
56		陳劍波	埼玉大学	助手	位置・力複合制御シリンダの開発とその応用	高度自動化	8	荒木 献次	
57		崔承彬	理研	研究員	微生物代謝産物より新規細胞周期阻害剤の探索研究	有山兼孝	5	長田裕之	
58		劉紀元	埼玉大学	大学院生	能動型干渉計に関する研究	天田科技	7	山ロー郎	
59		史生才	国立天文台	研究員	電波天文学のための超低雑音受信機の研究	伏見康治	8	稻谷順司	
60	徐開敏	東北大学	助教授	沿岸域・干潟の水質浄化機能とその保全	野上基金	10	須藤隆一		
61	1997/12/19	陳兵旗	東京農工大 連合農学	大学院生	田植ロボットの視覚部に関する研究	高度自動化	9		83
62		陳 文	電通大情報	大学院生	ウェーブレットによる標準化の研究	有山兼孝	6		
63		惠 泰	理研	特別研究員	超流動ヘリウム中の原子分子の分光学的研究	伏見康治	9		
64		馬哲旺	電通大電子工学	助教授	マイクロ波導波構造の電磁界解析に関する研究	野上基金	11		
65		畢躍進	宇都宮大工 応用化	助手	ペロフスカイト酸化物の電気化学的改質と合成	天田科技	8		
66		張琪	電通大情報	大学院生	両眼視による三次元対象の知覚に関する研究	天田科技	8		
67	1998年12月 22回	李松姫	東京理科大学	大学院生	鉄化合物蒸着膜の機能性と応用に関する研究	天田科技	9		87
68		史学敏	長岡技科大	大学院生	老年期痴呆自動診断システムに関する研究	高度自動化	10		
69		タシプラト・ロス	東京電機大	大学院生	流体の満運動と管内の満なし流	伏見康治	10		
70		許嘉鈺	群馬大	博士研究員	微粒子の処理に適用する装置の開発	天田科技	9		
71		張文	京大	大学院生	核融合炉用SiC/SiC複合材料の作製及び強度特性	有山兼孝	7		
72	1999/12/17	馮延文	東京農工大 農学	大学院生	北京郊外の森林集水域における酸性沈着物の挙動	環境科学	1		91
73		韓笑	電通大電子物性	大学院生	酸化物超伝導体の界面状態とトンネル分光	野上基金	12		
74		黄錦濤	東北大金研 材用試験炉	講師	強放射能FP炉内化学の質量分析的研究	天田科技	10		
75		林偉民	理研	協力研究員	硬脆材料の超精密加工法に関する研究	高度自動化	11		
76		劉琪環	千葉大環境 リモート	助教授	中国東北部における生命ゾーンの変化の研究	環境科学	1		
77		歐陽建勇	岡崎国立共同 研分子科 研	特別協力研 究員	分子性導体の分光学的研究	天田科技	10		
78		彭学	生物系特定 産業技術研 究推進機構	研究員	リグエン・ピフェニル構造の代謝遺伝子群	伏見康治	11		
79		橋宏選	アルファホ エコンサル タンツ	社員	自然水域における密度噴流の流動機構	有山兼孝	8		
80		2000/12/22	姜 友松	電通大	博士3年	高温超伝導体を用いた積層型トンネル接合に関する研究	有山兼孝	9	
81	李 基良		群馬大	博士2年	流動層からの微粒子、超微粒子の飛び出し現象	野上基金	13		
82	李 先寧		東北大金研 材用試験炉	博士3年	原生動物制御による窒素除去の効率化	環境科学	2		
83	馬 笑峰		電通大	博士3年	ニューラルネットによる少数データCT	伏見康治	12		

## 3 (2001年度~2011年度)

NO	年月日	名前	機関	身分	テーマ	奨励賞名	指導教官	出典 会報
84	2001/12/13	郭 怡氏	長岡技科大	博士1年	TENSを用いた痲足リハビリ手法の研究	有山兼孝	10	99
85		趙紅陽	埼玉工業大	博士2年	アルミ合金の双ロール薄板連続鋳造とその熱力学挙動シミュレーション	有山兼孝	10	
86		李月明	電通大	博士3年	電子衝突による多価イオン原子過程の研究	野上基金	14	
87		鄭美紅	電通大	博士3年	突発的騒乱への魚群の秩序的対応を創発する個体間相互模倣の働き	伏見康治	13	
88		周曉明	東京農工大 連合農学	博士3年	中国東北畑作地帯における機械化旱地農法の展開	環境科学	3	
89	2002/12/20	郭軍	新潟大自然 科学	博士3年	球状氷結晶中へのリン酸イオン、アンモニウムイオン、硫酸イオン、硝酸イオン等の取り込み現象と溶解現象について	環境科学	4	103
90		史江紅	東京農工大	博士2年	天然・合成女性ホルモンの微生物分解の研究	野上基金	15	
91		韓東力	電通大	博士3年	ハイパーテキストの利用に基づく自然言語処理の研究	伏見康治	14	
92	2003/12/20	劉洪津	東京農工大 連合農学	博士3年	米の貯蔵・加工と品質に関する研究	有山兼孝	11	107
93		黄 晨	物材研耐熱 材料G	研究員	白金族金属基合金の組織と高温機械的特性に関する研究	菅野昌義	1	
94	2003/12/20	沈 彦俊	千葉大 人間・地球環 境	博士3年	陸面一大気システム水文プロセスの研究	伏見康治	15	111
95		邱 麗玲	長岡技科大	博士3年	各種芳香族化合物嫌気性分解微生物の解析に関する研究	野上基金	16	
96	2004/12/17	謝国強	物材研超高 圧電顕(新 潟大学)	研究員	金属粉末パルス通電焼結過程および界面構造	野上基金	17	115
97		褚鳳敏	物材研超高 圧電顕(新 潟大学)	研究員	パルス通電焼結による助剤を用いないSiCの緻密化	伏見康治	16	
98		康 藝	東大システ ム量子工	博士終了	核融合炉液体ブランケット用Li-Sn合金中の水素同位体挙動	菅野昌義	2	
99		辺 培	埼玉工業大 物質科学	博士3年	フェライト材料の低温焼結方法に関する研究	向坊 隆	1	
100	2005/12/22	金 英俊	電通大	大学院	逐次打点法による面内曲げ	伏見康治	17	119
101		黄 聖鴻	電通大	大学院	単一周波数、又は高出力レーザー	菅野昌義	3	
102		韓 鎭輝	東大	大学院	超臨界アルコール中の溶媒と電子の吸収スペクトル、収量、減衰挙動の研究	向坊 隆	2	
103	2006/12/13	李 書敏	東大	研究員	双曲型偏微分方程式の逆問題の研究	伏見康治	18	122 123
104		DILINUER. Aji	千葉大	大学院	新疆における水資源・人間活動・気候変動の解析	菅野昌義	4	
105	2007/12/12	錢 慶榮	千葉大	大学院	畜産廃棄物系活性炭の開発とその吸着特性に関する研究	向坊 隆	3	127 128
106		李 英太	電通大通信 学	博士3年	準地衡風槽円筒モデルの改良と円筒円筒周辺のカオス混合	伏見康治	19	
107		李 叶秋	千葉大	博士2年	複素ニューラルネットワークを用いた医療画像の雑音除去の一方法	菅野昌義	5	
108	2008/12/15	馬 麗	筑波大学数 理物質科学	博士3年	Ni <sub>3</sub> Al 金属間化合物の触媒特性	向坊 隆	4	131 132
109		王 偉	千葉大自然 科学	博士3年	情報収集用超小型飛行体の自律飛行制御	伏見康治	20	
110		阿里木江 卡斯木	千葉大自然 科学	博士3年	衛星データによるグローバルな都市域の抽出と特徴分析に関する研究	野上基金	18	
111	2009/12/22	範 根蓮	物材研 国 際連携大学	博士3年	チタン・ニッケル形状記憶合金の高減衰機能の起源に関する研究	菅野昌義	6	136
112		姚 永昭	物材研	研究員	プラズマ支援エビタキシー法による窒化インジウムの成長と評価に関する研究	向坊 隆	5	
113	2010/12/17	張 悦	東大応用化 学	博士3年	有機物・高分子・有機金属錯体化合物をベースとした光機能性材料の創出	野上基金	19	139
114		蔡 岳平	電通大通信 学	博士3年	マルチキャリア光源を用いた光ネットワーク	菅野昌義	7	
115		王 磊	電通大通信 学	博士1年	ハッシュ関数の安全性評価	向坊 隆	6	
116	2011/12/19	孫 慶華	東大 電子 工学	博士終了	中国語音声合成における韻律制御手法の開発	日中科技		139
117		李 潤	千葉大 工	博士3年	カーボンナノチューブによるポリマー系ナノコンポジットの機械特性向上	野上基金	20	
118		周 玉美	物材研 国 際連携大学	博士	新規マルテンサイト及び新物性に関する研究	菅野昌義	8	
119		張 依章	千葉大 環 境園芸	博士3年	流域水循環と汚染物運移過程に関する研究	向坊 隆	7	
120	2011/12/19	陳 剣	長岡技科大 エネ・環境	博士終了助 教	中折れシールド機における曲線掘進時余剰り量及び中折れ角の算定手法に関する研究	日中科技		139
121		李 慶榮	東大 新領 域人間環境	博士3年	熱流体の定量可視化	菅野昌義	9	
122	2011/12/19	程 憲	筑波大学数 理物質科学	博士3年	高速充電デバイススーパーキャパシタの大容量化	日中科技		139
123		Husi Letu.	千葉大自然 科学	博士終了	DMSP/OLS 衛星の夜間画像を用いた電力消費量とCO2排出量の推定	日中科技		
124		羅 徳安	東大 電子 工学	博士終了	音声認識技術を用いた発音習熟度の自動推定	日中科技		

## 4 (2012 年度～2022 年度)

125		李 陽	電通大 総合情報学	博士 2 年	故障利用物理攻撃とその対策	日中科技	崎山一男	144
126	2012/12/21	元 金石	筑波大・物材研連携	博士修了	ハフニウム炭化物単結晶ナノワイヤの作成と電子源への応用	日中科技	唐 捷	
127		張 治宇	九大・物材研連携大学院	博士 3 年	強磁場発生用超伝導磁気レンズの開発	日中科技	木吉 司	
128		崔斐斐	千葉大理学地球生命圏	博士 3 年	東アジアにおける黄沙の発生と地表面状態の関係	日中科技	近藤昭彦	148
129	2013/12/20	彭 海蘭	電通大通信学	博士 3 年	コグニティブ無線ネットワーク上のリソース割り当て	日中科技	藤井威生	
130		張 菲菲	筑波大・物材研連携	博士 3 年	高性能グラフェン積層スーパーキャパシター開発	日中科技	唐 捷	
131		吳 志鵬	東大情報理工電子情報	博士修了 華為社員	マルチメディア処理と可視化	日中科技	相澤清晴	152
132	2014/12/15	張 東元	電通大情報工学	博士修了	酸化半導体の作製およびヘテロ接合の形成	日中科技	野崎真次	
133		張 紅娜	京大原子核	博士修了	粘弾性流体における弾性乱流特性及びダクト内における上昇気泡乱流に関する研究	日中科技	功刀資彰	
134		布和 宝音	千葉大理学	博士修了 講師	衛星リモートセンシングによる中国内モンゴル自治区における植生変動とその要因分析	日中科技	近藤 昭彦	155
135	2015/12/14	毛 偉	東大 原子力国際	研究員	先進機能性材料の調製と特性評価	日中科技	寺井隆幸	
136		王 建	東工大理工材料	博士修了 物材研ポスドク研究員	CoPt/CoO 層状構造の垂直磁気異方性と交換相互作用	日中科技	史 蹟	
137		安 紅雨	東工大理工材料	博士修了 慶応研究員	スピントロニクス材料に関する研究	日中科技	史 蹟	160
138	2017/1/11	ハイラ ティ・アリフ	千葉大理学地球生命	博士 3 年	衛星画像を用いたデブリ氷河観測の新手法	日中科技	近藤昭彦・建石 隆太郎	
139		張 斌	電通大情報工学	博士 4 年	ユーザーグループに対して複雑環境下でも思いやりを持った案内を行うロボット	日中科技	金子 正秀	
140		張 耀紅	電通大情報工学	博士修了 研究員	量子ドット太陽電池とペロブスカイト太陽電池における界面修飾と界面電荷ダイナミクス	日中科技	沈 青	164
141	2018/1/11	孫 一歌	筑波大 大学院	博士修了 物材研研究員	リチウムイオンキャパシター及びバッテリーにおけるグラフェン基電極材料の創製と構造制御	日中科技	唐 捷	
142		孫 理天	東大情報理工電子情報	博士修了	画像からのオブジェクト検出と複雑な特徴を用いた印象予測	日中科技	柴田直・相澤清晴	
143		丁 超	電通大情報工学	博士修了 研究員	高効率化に向けた新型太陽電池の界面制御	日中科技	沈 青	168
144	2019/1/11	段 振剛	東北大量子エネ	博士修了 中国核動力設計院研究員	燃料被覆管表面における自己修復機能の発見	日中科技	阿部 弘亨	
145		Ayisulitan Maimaitai li	千葉大理学地球生命	博士 3 年	中国新疆ウイグル自治区カシュガル地域における土地利用変化の解析	日中科技	近藤昭彦	
146		林 興昇	東大機械工	博士 3 年	新型有機太陽電池の研究開発	日中科技	丸山茂夫	172
147	2020/1/15	顧 帥	東大システム創生	博士修了 韓国地韓国地質資源研究員	リサイクルのためのターゲット材からの金属の抽出	日中科技	ドドビバ・ジョルジ	
148		景曉蓓/雍旭	電通大情報工学	博士 2 年	筋電義手のための適応関節機構を有する五指ハンドの開発	日中科技	横井浩史 美銀来	
149	2021/1/13	高 潤昇	筑波大数理工物質	博士修了 物材研ポスドク研究員	高性能リチウム蓄電デバイス用グラフェン材料開発	日中科技	唐捷	176
150		Xiafukaiti Alifu	千葉大地球環境	博士修了 任研究員	レーザー光の散乱に基づく大気エアロゾルと高散乱媒質中光伝搬の特性解析	日中科技	齋藤尚子	
151	2022/1/10	李文揚	電通大情報工学機械知能	博士 3 年	ワイヤ干渉駆動を用いた人型ロボットの開発	日中科技	姜 銀来	180
152		張 政	電通大情報工学研究科	博士 3 年	スズ (Sn) 系ペロブスカイト太陽電池の高効率化と耐久性向上に関する研究	日中科技	沈 青	183
153	2023/1/10	杜 兆陽	電通大情報工学研究科	博士修了	車両・無人航空機を活用した災害時情報共有のための通信プロトコル、フェデレーテッド・ラーニングを用いた車両IoT情報処理基盤技術の研究	日中科技	策力木 格	

## 第 15 回理事会 10 月 11 日

1. 国際シンポジウムの共催もしくは後援について、  
達博会員から提案のあった国際シンポジウムの共催もしくは後援について審議の結果、シンポジウムの主催者や中国側のカウンターパートを確認することとし、継続審議となった。
2. 今年度上半期会計報告がなされた。

## 第 16 回理事会 12 月 12 日

1. 中国人留学生研究奨励賞の選考委員会岩田修一委員長より 2022 年度の選考結果が報告され、以下の 2 名の受賞を了承した。

### 1. 張 政 Zhang, Zhen 氏

電気通信大学大学院情報理工学研究  
科基盤理工学専攻博士後期課程 3 年

テーマ：スズ (Sn) 系ペロブスカイ  
ト太陽電池の高効率化と耐久性向上  
に関する研究

指導教員：教授 沈 青 (Shen Qing)

### 2. 杜 兆陽 Du, Zhaoyang 氏

電気通信大学大学院情報理工学研究  
科情報・ネットワーク工学専攻博士  
課程修了 (2021. 03)

テーマ：車両・無人航空機を活用した  
災害時情報共有のための通信プロ  
トコル、フェデレーテッド・ラーニ  
ングを用いた車両 IoT 情報処理基盤技  
術の研究

指導教員：教授 策力木 格  
(Celimuge Wu)

2. 前回議論になったシンポジウムの件は延期になった、

## 会費納付の御礼

当協会に対する皆様の日頃のご支援に、  
厚く感謝申し上げます。

2022 年度会費につきましては、11 月 30  
日時点で 35 名方々及び千代田テクノル社  
(10 万円) から納付がありました。

厚く御礼申し上げます。

未納の方はご納入をお願いいたします。

正会員会費 年額 1 万円

振込先 普通預金 みずほ銀行 横山  
町支店 店番 0 4 0 口座番号 3 0 1 5  
8 8 1 日中科学技術交流協会

## 目次

1 中国人留学生研究奨励賞の由来	
協会会長 有山正孝	1
2. 中国人留学生研究奨励賞受賞者一覧	4
3. 第 15 回理事会	8
4. 第 16 回理事会	8
5. 会費納付の御礼	8